

「つわり」悪阻に對するドラマミンの効果

九州大學醫學部産婦人科學教室

教授 木 原 行 男

研究生 内 田 孔 平

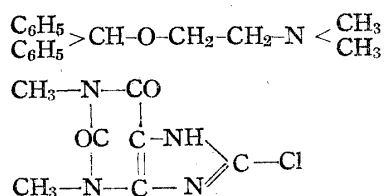
I. 緒 言

妊娠嘔吐に關してはヒポクラテス、アリストテレスの昔より問題視せられているが、現今尙、その原因に關して多數の假説が發表されているに過ぎず、従つて又、治療に於いても未だにこれを眞に完治させ得る藥物はない。

余は偶々、大日本製藥提供のドラマミンを吾教室を訪れた「つわり」悪阻患者の治療に使用した症例を少數ながら略記して、本藥物療法の臨床的價値批判の一助にせんとするものであります。

II. ドラマミン (Dramamine) とは

β -Dimethyl aminoethyl benz hydryl ether 8-Chloro theophyllinate



以上の如き構造を有し、抗痙攣性効果は低いが重要な抗ヒスタミン力價を有し、而も毒力は少いと云う特長があり、アメリカに於ては、主として動搖病の嘔氣、嘔吐、眩暈の治療に用いられている。近時産婦人科領域でも妊娠に併發する悪心、嘔吐等の治療に用いられ、完全治癒72.1%が報告されている。

III. 實驗法

ドラマミン1日3回、100乃至200mgを用いた。そしてドラマミン自身に依る効果を見る爲、極力他藥物の併用は行わなかつた。

ドラマミンの投與法は内服と直腸注入の兩法があるが、余は全例内服に依つた。

實驗成績は下表の如くである。

IV. 總 括

使用効果判明せる症例20例、他に使用効果判明しない例8例であつた。(此の効果不判明なる例は再度來院しなかつた爲、効果判定不能な者である)。

先ず總括的にその使用効果を見ると、卓效(卅)3例、顯著な效(卅)4例、稍々效(十)8例、效僅少(士)3例、無效(-)2例であつて、(卅)、(卅)、(十)を効果あるものとする時は75%の有効率となり、他に効果不明な8例を治癒の爲來院しない者と見る時は有効率82.1%となる。

次に各症状別にその効果を見ると次の如くなる。

	全治	輕快	不變	計	有効率 (%)
食思不振	5	10	5	20	75.0
悪 心	9	6	5	20	75.0
嘔氣嘔吐	8	3	2	13	84.6
流 涎	9	1	4	14	71.4
頭痛頭重	3	2	7	12	41.7
眩 暈	6	1	6	13	53.8
睡眠障碍	3	1	1	5	80.0
惡 感	0	0	3	3	0

13例に行つた尿一般定性検査に於いて、使用前の尿所見は蛋白1例、糖0例、ビリルビン1例、ウロビリノゲン9例、ウロビリノゲン7例、アセトン0例で、ドラマミン使用後も何等著明な變化を示さなかつた。即ち、既存の病的尿成分も自覺症状の好轉に一致した變化を示さず、又新しく病的尿成分を排出する如き、有害作用は認められなかつた。

副作用は8例に認められた。睡氣、ボンヤリ、居睡り5例、手指震顫1例、腦貧血2例、即ち40.0%に見られるが生命等に危害を及ぼす様な中毒作用は認められなかつた。此等の副作用も藥物の停止に依り直ちに輕快した。

例數	氏名	年齢	妊娠回数	妊娠月數	1日用量	服用日數	使用前後	食慾不振	惡心嘔吐	流涎	頭痛眩暈	睡眠障礙	蛋白	糖	ビリルビン	クロロピリン	アセトロン	一般所見	局所所見	感覺障礙	副作用	效果判定
I	大野アイ子	21	0	IV	100 mg	3日	使用前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		+	+	+
II	檜山 民子	25	0	VI	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	胃潰瘍	双胎	+	+	+
III	小森 榮子	23	1	IV	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	腎炎		+	+	+
IV	徳村富美子	38	5	II	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
V	中村ハルエ	40	9	II	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
VI	千頭 壽代	23	0	II	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		子宮腔部癒爛	+	+	+
VII	鳥飼 文子	27	2	II	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	膽嚢炎		+	+	+
VIII	中村 富子	30	0	III	30(1回)		前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	便秘	子宮腔部癒爛	+	+	+
IX	坂口7ジノ	26	1	IV	200	5	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
X	串山 文代	27	0	II	60(2回)		前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	膽石症		+	+	+
XI	大久保解子	21	0	III	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XII	岡 イシノ	26	2	IV	200	2	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XIII	徳田富美子	24	1	IV	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XIV	石橋ヒサ子	33	2	III	200	2	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XV	河野 満子	24	0	II	200	2	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XVI	中山 愛子	36	1	II	100	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XVII	谷川 和子	24	0	VIII	200	2	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XVIII	大楠 久子	27	3	II	200	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XIX	山口 三月	24	0	V	100	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+
XX	森 かずゑ	28	4	II	100	3	前後	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+			+	+	+

尙妊娠月数は II カ月 9 例, III カ月 3 例, IV カ月 5 例, V カ月 1 例, VI カ月 1 例, VIII カ月 1 例であつた。

初産婦 9 例, 経産婦 11 例で, その間に著明な薬效の差は認められなかつた。

全身障碍として疾病を併有する者 8 例, 婦人科疾患 5 例でそのうち双胎 1 例であつた。即ち何等かの疾病と「つわり」悪阻の症状を併發せる者 9 例, 即ち約 45% は此等の疾病の存在が「つわり」悪阻症状を増悪するものではないかと思われる。更に寄生蟲を検するなら, 更に多數の併存率を見られる。

V. 考 按

ドรามミンは動搖病の治療及び豫防薬として, 嘔氣, 嘔吐, 眩暈に對する効果は定評があるが, 抗ヒスタミン劑である爲, 妊娠中毒症の起因毒物をヒスタミン様物質と見做すヒスタミン説よりする時は, これを中和する意味に於いて當を得た「つわり」悪阻の治療薬と思考される。

副作用の多くは抗ヒスタミン劑に定評ある催眠の副作用と同じものと推察され, 「つわり」悪阻患者で睡眠障碍を訴える者に, 就寝前服用させる時は, 副作用がその睡眠障碍の療法になると思考する。

余は 2 例に於いて, 腦貧血様症状 (意識濁濁, 應答澁滞, 譫妄, 四肢厥冷等) を経験したが, 其の 1 例は高度の食慾不振, 悪心, 嘔吐を訴え, 瘦瘠

甚しく, 榮養障碍されていた者で 30mg 1 回服用に依り, その 1 例は軽度の食慾不振, 中等度の嘔吐を訴えていた者で 30mg 2 回の内服に依り發作を起した。幸い一時的で著變を見なかつたが, これは決して薬用過量とは思われない。又兩者共, 日を同じうし 6 月 30 日であつた。これは日本の濕氣多く, 温度高き季節であり, 此の炎暑の中を來院せる疲勞, その他に依るものではないかと思われる。尙兩者共便秘を訴えていた。

VI. 結 辭

(1) ドรามミンは「つわり」悪阻に對して種々の藥物療法に伍して使用價値あるものと認める。有効率 75% である。各症状中殊に食慾不振, 悪心嘔吐, 流涎, 睡眠障碍に卓效がある。

(2) 用量は先ずドรามミン 1 日 100mg 3 回分服させ, 効果及び副作用の如何に依り, 適宜増減又は他藥物との併用, 置換をなすのが妥當と思われる。

(3) 副作用は睡眠障碍に對しては, 益害相半ばするものであるが, 生命等に危害を及ぼす様な中毒作用は経験しなかつた。従つて 1 日量 100mg 乃至 200mg 内外から始める治療は家庭に持ち歸らせ内服させるも危険はないと思考する。

文 獻

- 1) Eastman, N.J. and Hellman, L.M.: Personal communication.
- 2) Gay, L.N. and Carlner, P. E.: Science. 1949, 109, 159.

(昭 27・7・21 受付)

下痢 (赤痢 痢疾) には!

★フタリルスルファチアゾール★

副作用なし
効果適確

フタリル



(包装) 250瓦 25瓦
20錠 8錠

製造元 三菱化成 (旧日本化成) 販売元 中村 滝